

平成21年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査
平成22年1月15日(金)実施

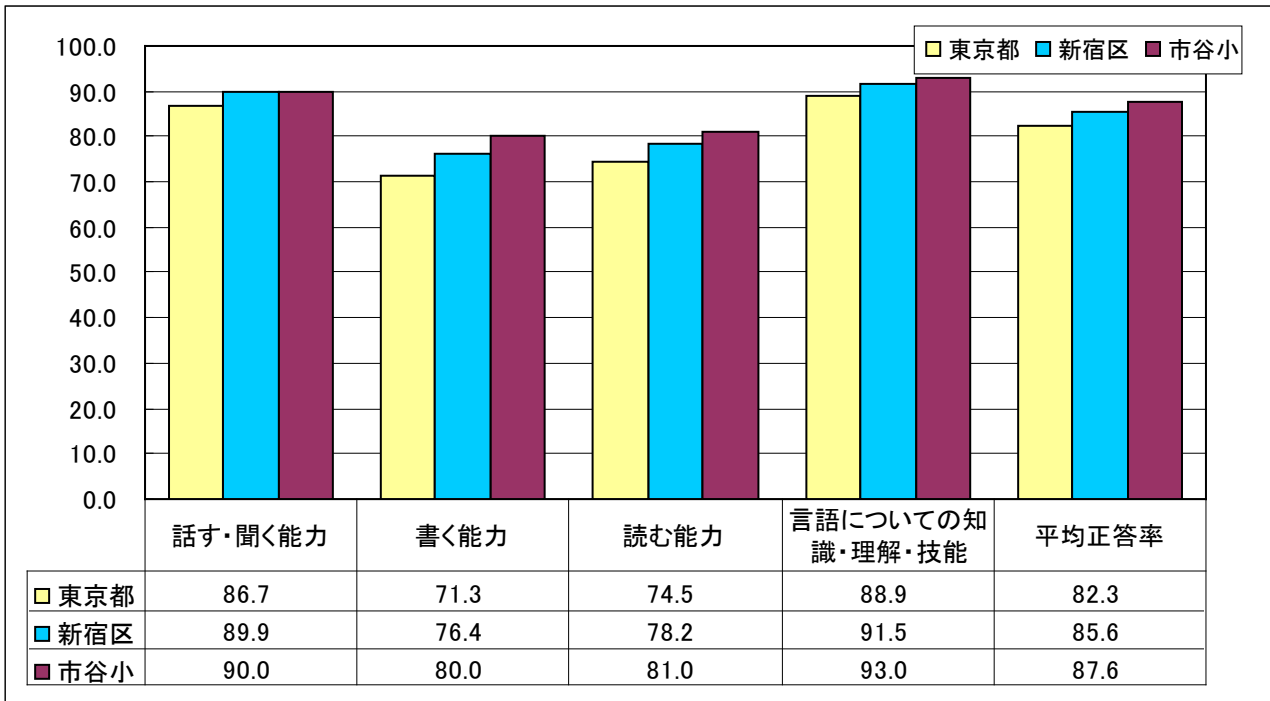
新宿区立市谷小学校 分析結果 平成22年7月

基礎的・基本的な事項に関する調査 【小学校第4学年（現第5学年）】

◇調査の目的

- (1) 学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況を把握する。
- (2) 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題を明確にし、その改善・充実を図るとともに、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

【国 語】



【分析と指導改善の方向】

◇国語の平均正答率は、87.6%で、東京都・新宿区を上回っており、基礎的・基本的な事項についての定着度は概ね定着している状況である。

◆書く能力

問題10(3)「文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりする」の正答率が62.6%となっており、他の問題より10ポイントほど正答率が低い。(都：54.6%、区：58.6%)原因としては、書いた文章を見直して、加筆、訂正したりする経験が少ないことが考えられる。

→授業改善のポイント

- ・「書く事柄を明らかにする力」「文章を組み立てる力」「文章を見直す力」の段階的な指導を充実する。

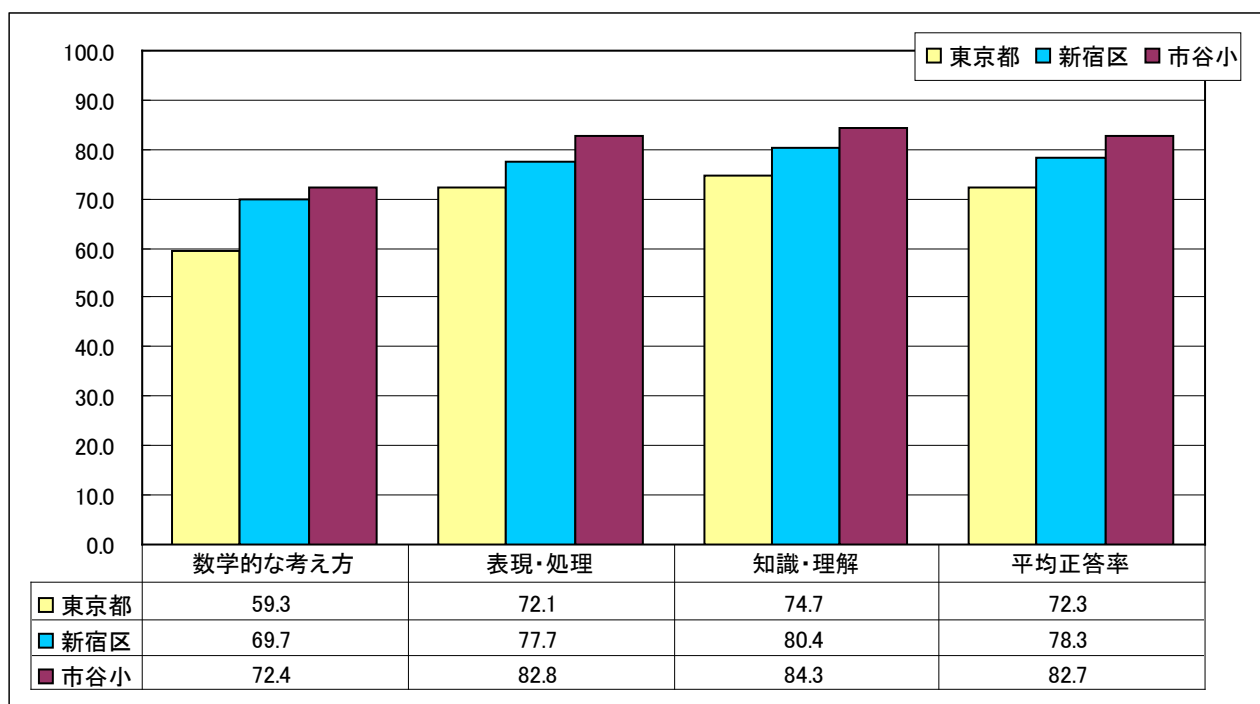
◆読む能力

問題11(2)「場面の様子を、叙述を元に想像しながら読む」の正答率が37.4%となっている。(都：36.7%、区：41.4%)原因としては、文章の一部の表現をとらえ、十分な検討をせずに、判断して場面の様子をとらえる傾向がある。

→授業改善のポイント

- ・登場人物の真情や行動などの叙述に基づいて場面の様子を正しくとらえる指導を充実する。

【算 数】



【分析と指導改善の方向】

◇算数の平均正答率は、82.7%、東京都・新宿区を上回っており、基礎的・基本的な事項についての定着度は概ね定着している状況である。

◆数量や図形についての表現・処理

問題1 (8)「 $1/10$ の位までの小数の減法の計算ができる」の正答率が61.7%と低くなっている。(都：50.1%、区：58.3%)原因として、小数の減法における位取りについて、一の位にそろえるのではなく、一番右の数字を揃えると誤認していることによると考えられる。

→授業改善のポイント

- ・小数の意味を理解させるとともに、整数の計算の仕方に帰着し、小数の計算の仕方を考える指導の充実を図る。また、和や差の見積もりを行い計算結果を見通す活動を充実する。

◆数量や図形についての知識・理解、表現・処理

問題6 (1)(2)「整数の除法の意味が分かる・計算ができる」の正答率が(1)58.9%、(2)59.8%となっている。(都：(1)49.8%、(2)50.3%、区：(1)59.6%、(2)60.0%)原因としては、立式の際、「3倍にあたります」の表現から乗法を選択したものと考えられる。

→授業改善のポイント

- ・演算決定に際して、「合わせて」「〇倍」などの演算を想起させるような言葉だけで決定するのではなく、どのような場面なのか想起させ、線分図などを活用して二量の関係を視覚化する指導を充実する。

◆数量や図形についての知識・理解

問題11 (2)「長方形の周と一辺の長さの関係を理解している」の正答率56.1%となっている。(都：39.6%、区：49.2%)原因としては、図形の構成要素、辺と辺との関係などの理解不足、面積の求め方との混同などが考えられる。

→授業改善のポイント

- ・平面図形や立体図形の作図、実際に作るなどの活動を通して、体験的に図形の構成要素を理解させるようにする。